

社 報



休憩時間

清水建設で作業時間の効率を向上させる委員会が結成され、当社もその委員として委員会に出席しています。

その主旨は、10時や3時の休憩ですが、各職がまちまちに好きなように休憩しているように見え、そのガラガラした雰囲気が作業に支障を与えていないかが問題になったわけです。

清水建設では実際の休憩がどうなっているかを、各現場で時間を測ったようです。その結果は、15分～30分と非常にバラツキのある結果ができました。当日の作業状態など一概に時間の長短だけで判断できないことを前提にしても、もっと改善する余地があるのではとされています。

当社では作業時間・休憩時間は各現場の職長の判断によっていますが、作業時間を確保した上で、効果的な休憩時間の取り方についてはよくよく考えねばなりません。

単価が厳しい状況の中で、ライバル各社も必死の工夫を行って、少しでも仕事を伸ばすことを考えているはずですが、もちろん当社もその中で勝ち抜いていかねばなりませんから、同業他社よりも更なる工夫と改善を加える必要があります。

作業時間は長く、休憩時間は短いほど良い、と言うわけではありません。メリハリの利いた効果的な休憩を各現場に願う次第です。

職人の「ころころ！」2

「職人のころころ」・「モノづくりのころころ」については、前回にも述べました。

職人と言うからには「腕を磨く」姿勢が必要であると言いましたが、この事は、職人だけでなく、すべての職業人に共通のことであります。営業職が営業テクニックを磨くことは当り前のことであり、職人にだけ「腕を磨く」ことが問われているわけではありません。

しかし、「職人」が「職人であり続ける」ことは大変なことです。特に、今のような非常に厳しい状況の中では、1円でも多く出来高をこなして、生活の糧を得なければなりません。となると、どうしても出来高にばかり目が行きがちになってしまいます。ですが、「腕を磨く」と「出来高をあげる」ことは深く関連します。

ずいぶん前になりますが、清水建設でQC運動が盛んに行われたことがあります。QCとはクオリティコントロールの略で品質管理ということです。

品質を上げて、不良品を少なくすれば、モノを安く作ることができると言う理論ですが、この理論を展開して、日本製品の品質が良くなり、世界中に製品を輸出できるようになったことも事実です。

型枠工事でも品質管理の理念は大変に重要です。ハツリ・補修など、型枠工事の精度不良は、そのあとで大きな出費・コスト負担を

伴います。精度を上げて、このような出費を削減することは、原価を下げることに他ならないからです。この意識を持たないと、品質と出来高という、一見、二律背反することを、同時に満足させることはできません。

「腕を磨く」という事は、単に良い仕事をするというわけではなく、最終的には出来高を増やし、コストを削減することに通じなければなりません。

その為には、管理という言葉の意味の重要性を知る必要があります。普段から「管理」という言葉は良く使用しますが、ただなんとなく使っていることが多いのではないのでしょうか。

管理とは、あるべき姿を定め、現状との差を知り、現状をあるべき姿に近づけることを言います。

管理ができていない場合には、あるべき姿を意識していないのか、現状との差をチェックしていないのか、必要な改善を知りながら手を打とうとしないのか、それをはっきりさせねばなりません。たいしてはあるべき姿を決めていないことが、管理不在の原因となっています。

あるべき姿を決めることこそが管理「腕を磨く」の第一歩です。自らの仕事を振り返り、あるべき姿を決めると、仕事のレベルはあがるはずなのです。

(今回は第1期の決算発表です。)

「整理整頓！」にこだわる

当社の今年の安全方針は、「整理整頓」の徹底にあります。現場事故といえれば必ず人が関わってきます。人がケガをするから事故が発生するわけですから、安全は人を問題にしなければなりません。

安全で整理整頓と言うと、現場がきれいに片付いておれば、つまづきもしないし、ケガも減ると考えている人もいます。でも、整理整頓の意義はそれだけではないのです。

人は感情の動物とも言われます。人間

関係は難しいとも言われます。

その点、モノは人に比べて管理がしやすいのです。その管理しやすいモノを管理できなくて、他のことが管理できるのでしょうか。

整理整頓は安全の基本と言われる理由はそこにあるのです。だから「整理整頓」にはこだわり続けねばならないのです。

ここでも「あるべき姿」が大切になってきます。

安全成績 (H16年度)

現場災害	H16.1.1-H16.5.31
重大災害	-----0
休業災害	-----0
不休災害	-----0
物損災害	-----0
その他	-----0
合計	---0
交通災害	H16.1.1H16.5.31
人身災害	-----0
物損災害	-----0
合計	---0